

あなた自身のことについて

問1. あなたの性別はどちらですか。

項目	男	女	未記入	合計
人数	205	235	4	444

問2. あなたの年齢は何歳代ですか。(令和3年1月現在)

項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	未記入	合計
人数	65	78	86	92	120	3	444

問3. あなたの職業は何ですか。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 農・林・漁業(農業・林業・漁業の自営者)	17	3.8%
2. 商・工・サービス業(小売業・飲食店・理髪店などの自営業者)	21	4.7%
3. 自由業(開業医・芸術家・議員・僧侶・弁護士など)	2	0.5%
4. 農・林・漁業の家族従業者(家業を継続的に手伝っている人)	3	0.7%
5. 商・工・サービス業の家族従業者(家業を継続的に手伝っている人)	6	1.4%
6. 自由業の家族従業者(家業を継続的に手伝っている人)	5	1.1%
7. 民間企業の社員・役員	152	34.2%
8. 公務員・団体職員	55	12.4%
9. パートタイマー・アルバイト・フリーター・嘱託など	66	14.9%
10. 専業主婦・主夫	45	10.1%
11. 学生	13	2.9%
12. その他	17	3.8%
13. 無職	38	8.6%
14. 未記入	4	0.9%
合計	444	

問4. あなたはご結婚されていますか。

項目	未婚	既婚(配偶者あり)	既婚(配偶者と離別・死別)	未記入	合計
人数	90	315	35	4	444

【問4で「既婚(配偶者あり)」と答えた場合】

問5. お宅は共働きですか。

項目	共働きである	共働きではない	未記入	合計
人数	208	106	1	315

問6. あなたの家族形態はどれですか。

項目	人数(人)	割合(%)
1. あなただけの単身世帯	35	7.9%
2. 夫婦だけの世帯	79	17.8%
3. 親と子の世帯	207	46.6%
4. 親と子と孫の世帯	83	18.7%
5. その他	18	4.1%
6. 未記入	22	5.0%
合計	444	

問7. あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

項目	いる	いない	未記入	合計
人数	318	116	10	444

【問7で「いる」と答えた場合】

問8. あなたのお子さんは次のどれにあたりますか。（複数回答可）

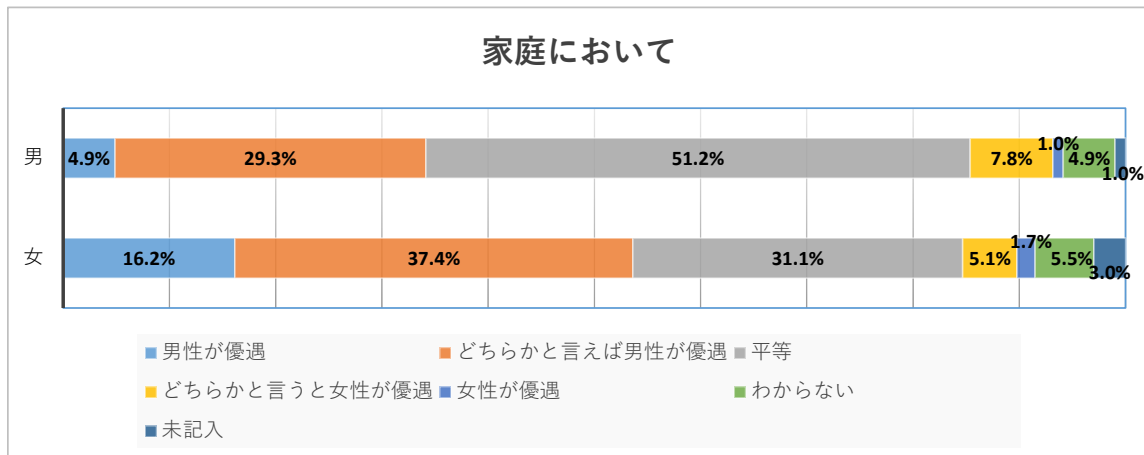
項目	人数 (人)	割合 (%)
1. 乳児	18	3.7%
2. 幼児	57	11.8%
3. 小学生	58	12.0%
4. 中学生	39	8.1%
5. 高校生	41	8.5%
6. 大学、大学院生（高専、短大、専門学校含む）	43	8.9%
7. 学校を卒業した（中退含む）未婚の子ども	106	21.9%
8. 学校を卒業した（中退含む）既婚の子ども	119	24.6%
9. 未記入	3	0.6%
合計	484	

問9. あなたの最終卒業校はどれですか。

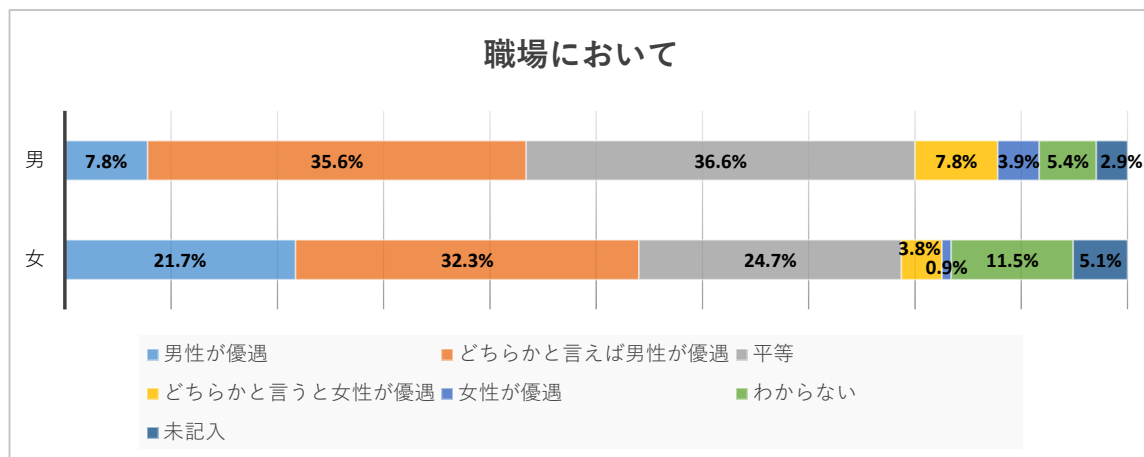
項目	人数 (人)	割合 (%)
1. 中学校	31	7.0%
2. 高等学校	189	42.6%
3. 各種専門・専修学校	78	17.6%
4. 短大・高等専門学校	43	9.7%
5. 大学（中退含む）	80	18.0%
6. 大学院（中退含む）	4	0.9%
7. 未記入	19	4.3%
合計	444	

男女の地位の平等感、男女の生き方について

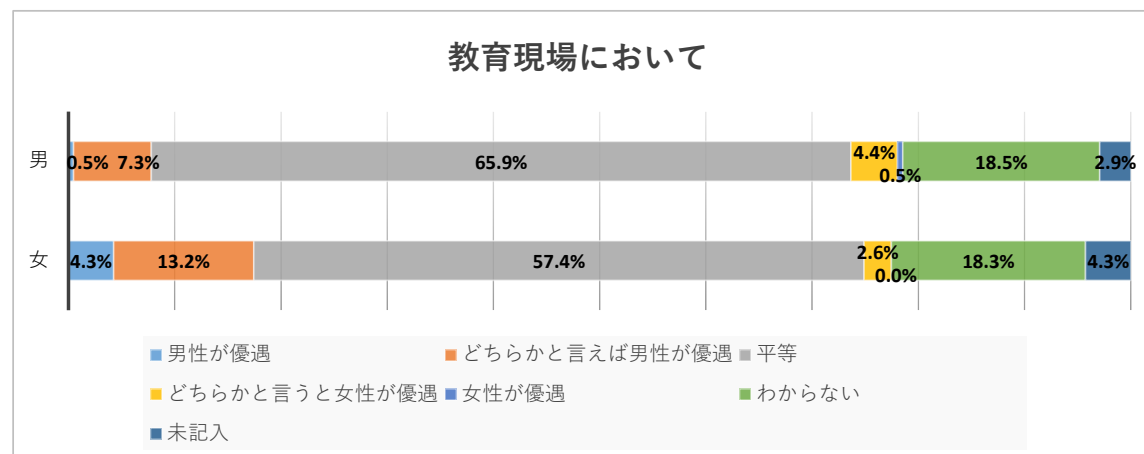
問1. 次の各分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。



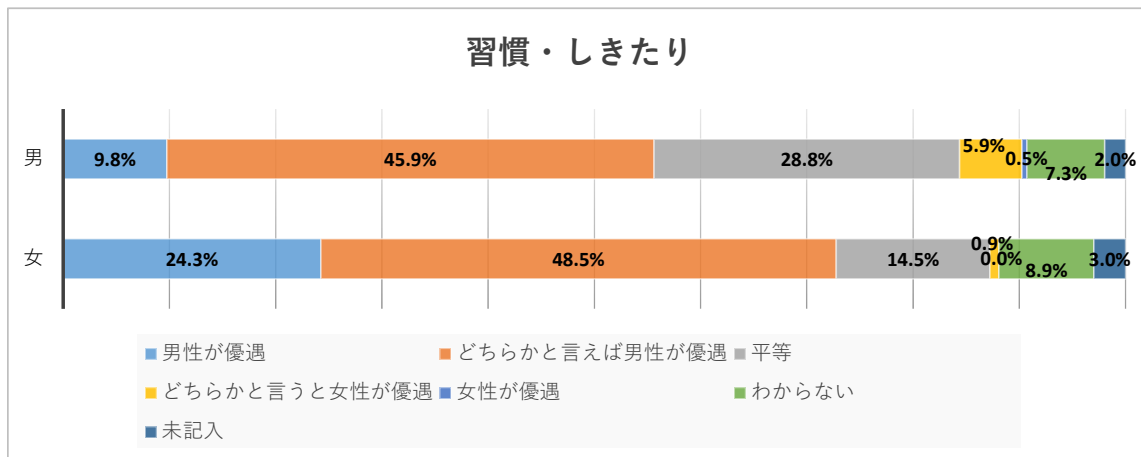
「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性より女性のほうが高い（男性4.9%、女性16.2%）。男性は「平等」と感じていても、女性は「男性が優遇」「どちらかと言えば男性が優遇」との回答が多い。



男女ともに「どちらかと言えば男性が優遇されている」と回答した割合が高い。男性は「平等である」と回答した割合が最も高い。

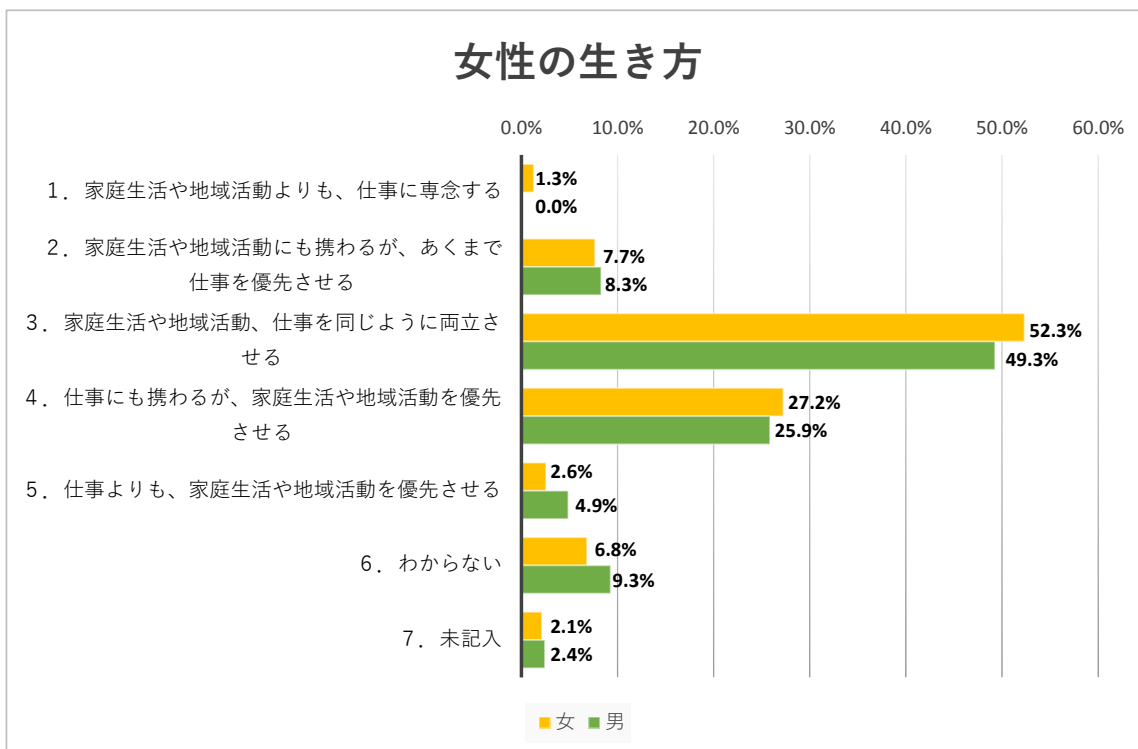


男女ともに「平等である」と回答した割合が高い（男性65.9%、女性57.4%）。その一方で「男性が優遇されている」「どちらかと言えば男性が優遇されている」と回答した割合は、女性のほうが高い。

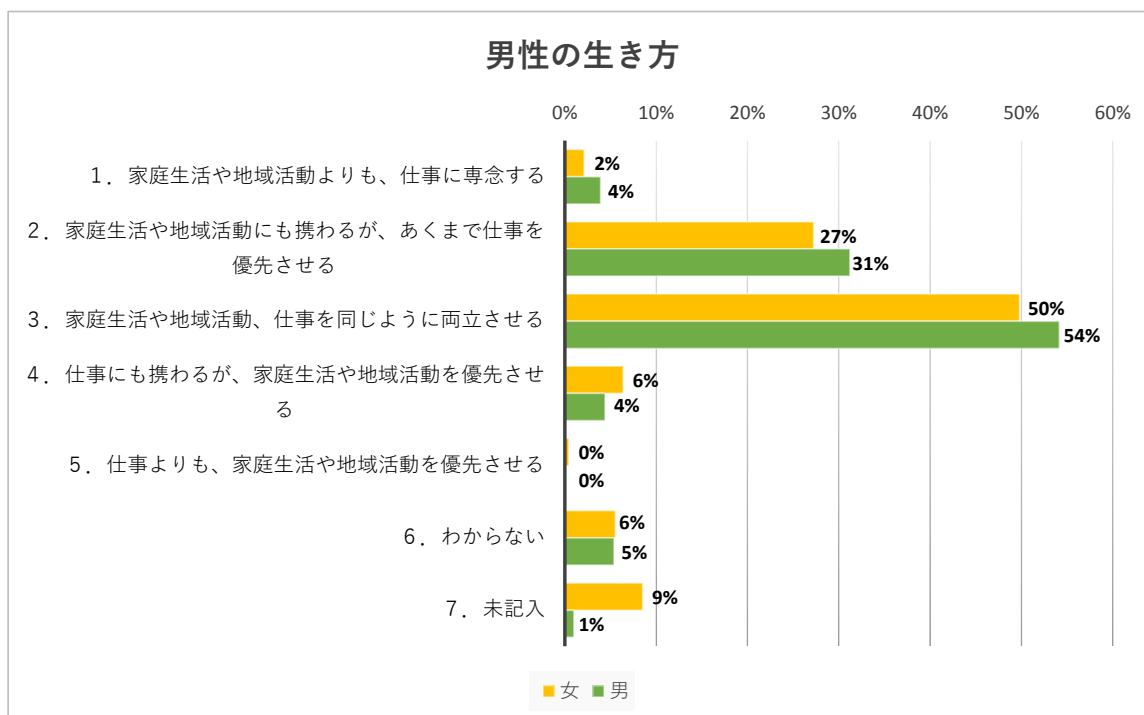


「男性が優遇されている」と回答した割合は、男性より女性のほうが高い（男性9.8%、女性24.3%）。

問2. 女性及び男性の生き方として望ましいと思うものはどれですか。



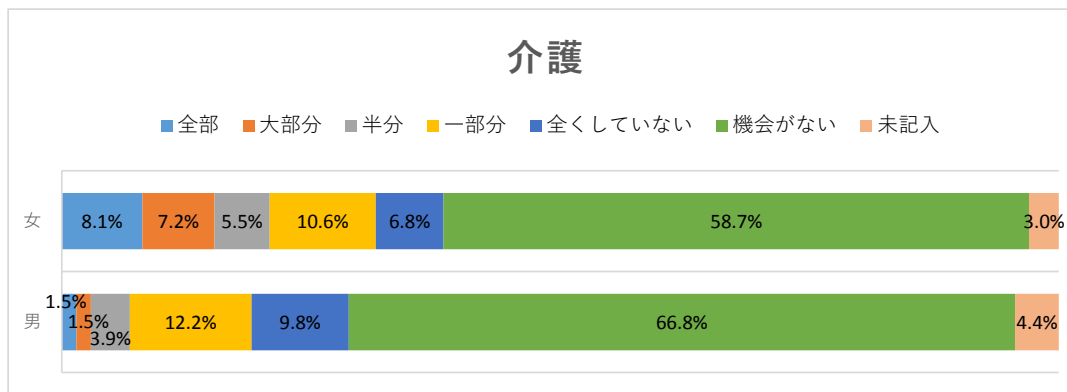
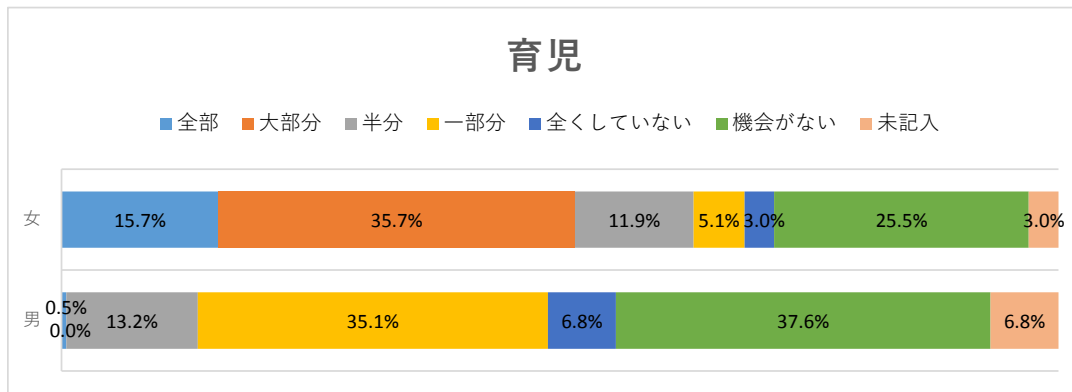
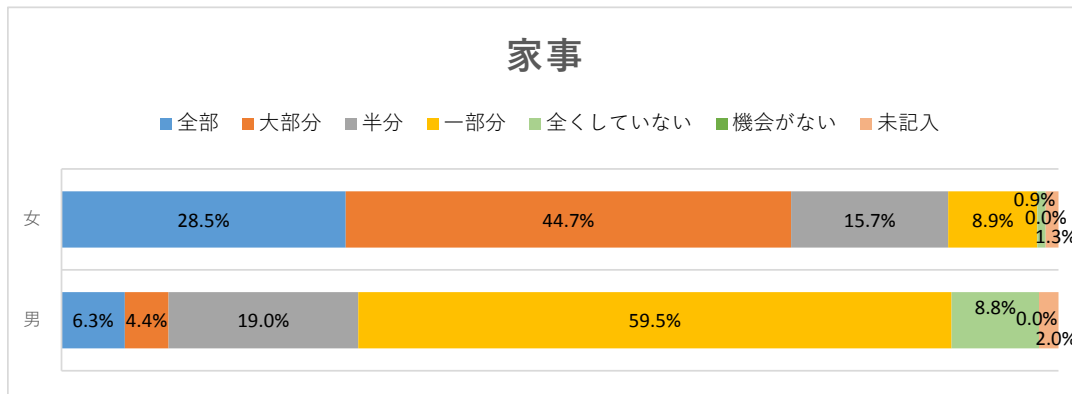
「女性の生き方」については、『家庭生活や地域活動、仕事を同じように両立させる』の割合が男女とも最も高く、次いで『仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる』が高くなっている。



「男性の生き方」についても『家庭生活や地域活動、仕事も同じように両立させる』の割合が男女とも最も高いが、次いで多いのが『家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる』である。

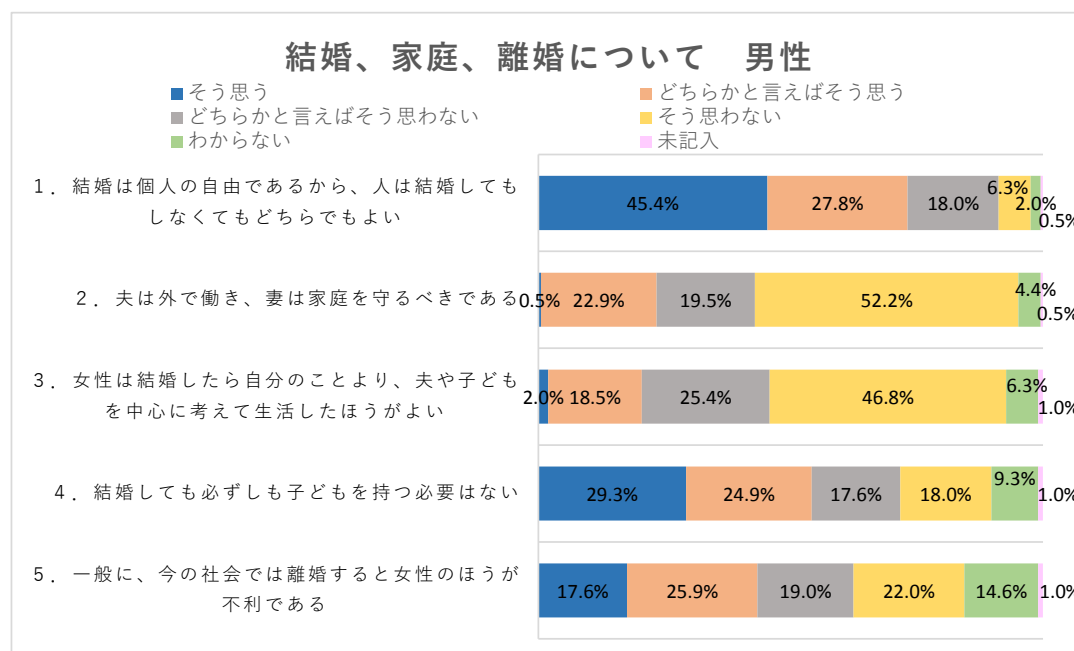
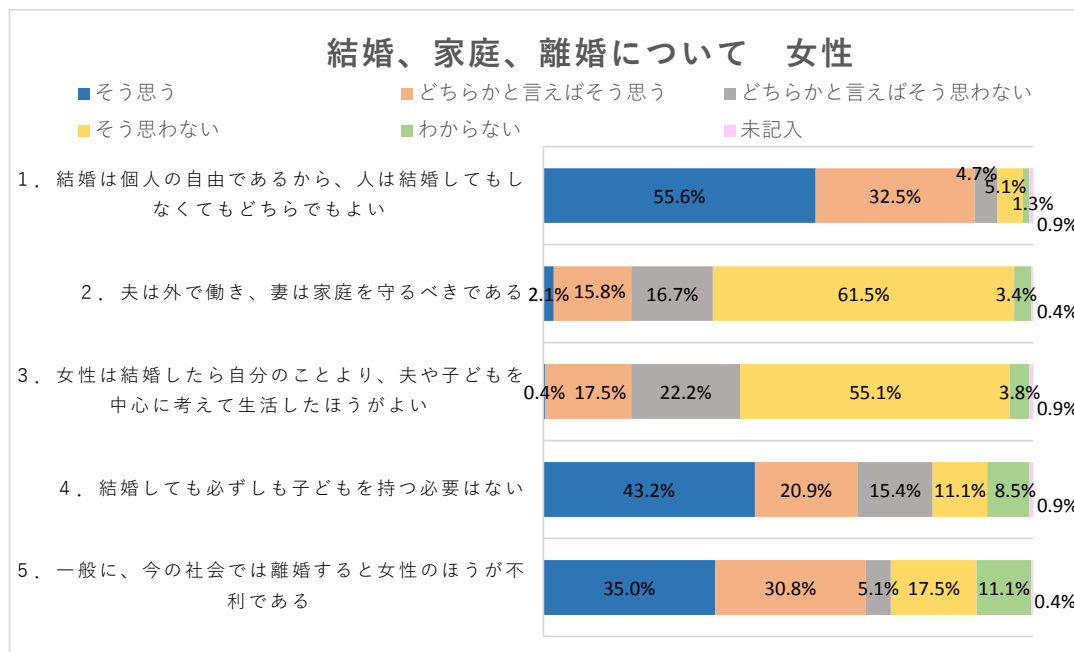
家庭、結婚観について

問3. 家庭の中の労働について、あなたはどのくらい分担していますか。



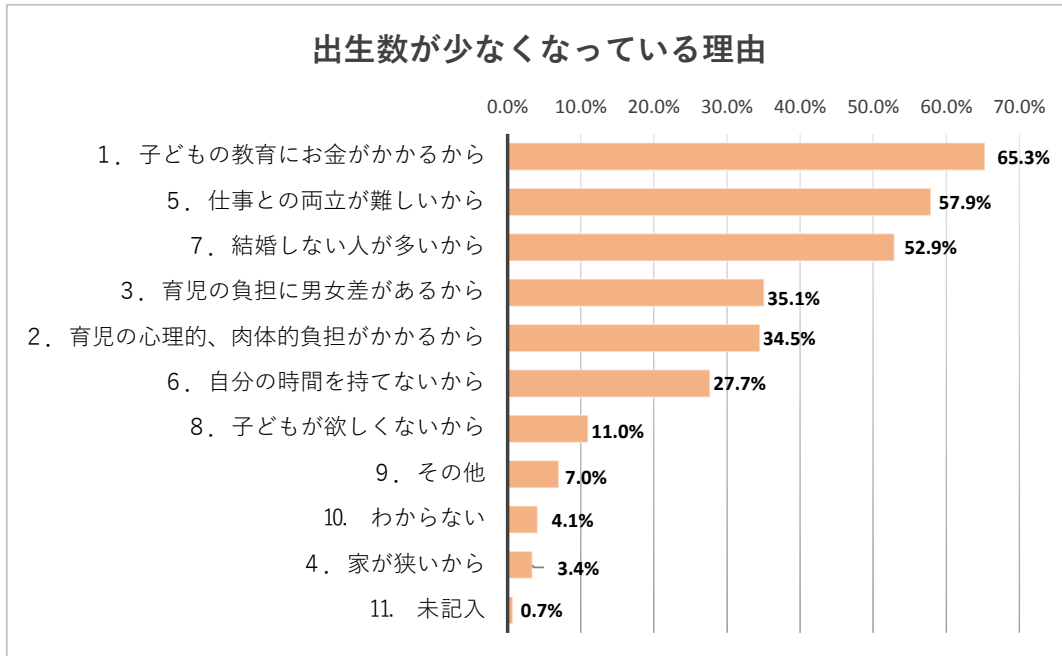
家事・育児・介護の家庭に必要な労働は、いずれも女性が負担している割合が高い。

問4. 結婚、家庭、離婚について、あなたの考えに近いものを選んでください。



『結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』という考えに「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は男性より女性のほうが高い（男性73.2%、女性88.1%）。『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考えに「そう思わない」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性52.2%、女性61.5%）。『女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい』という考え方に「そう思わない」、または「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性72.2%、女性77.3%）。『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』という考え方に「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は男性より女性のほうが高い（男性54.2%、女性64.1%）。『一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である』という考え方に「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は男性より女性のほうが高い（男性43.5%、女性65.8%）。

問5. 出生数が少なくなっている理由はなんだと思いますか。(複数選択可)



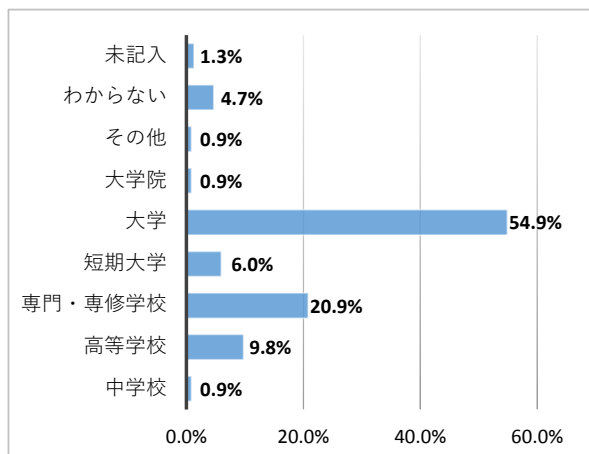
出生数が減少している理由は、「子どもの教育にお金がかかるから」が65.3%で最も多く、次いで「仕事との両立が難しいから」が57.9%、「結婚しない人が多いから」が52.9%、「育児の負担に男女差があるから」が35.1%と続いている。

教育について

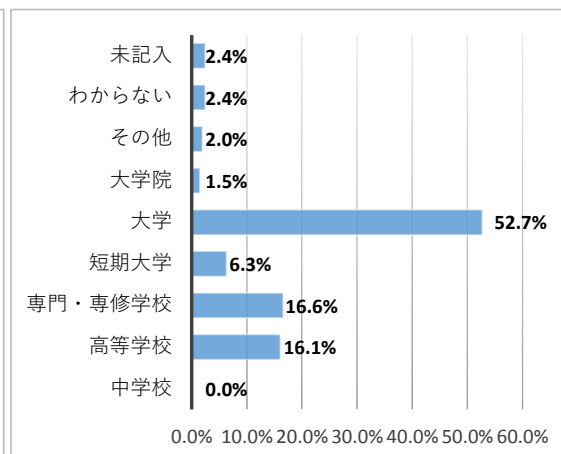
問6. お子さんにはどの程度の教育を受けさせたいですか。お子さんがいらっしゃらない場合は、いと仮定してお答えください。

【女の子の場合】

女性

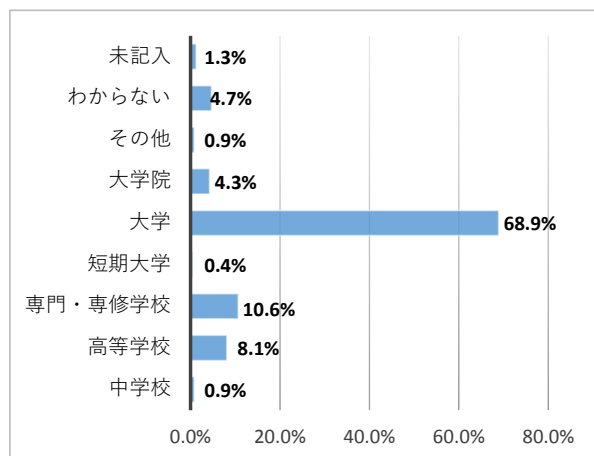


男性

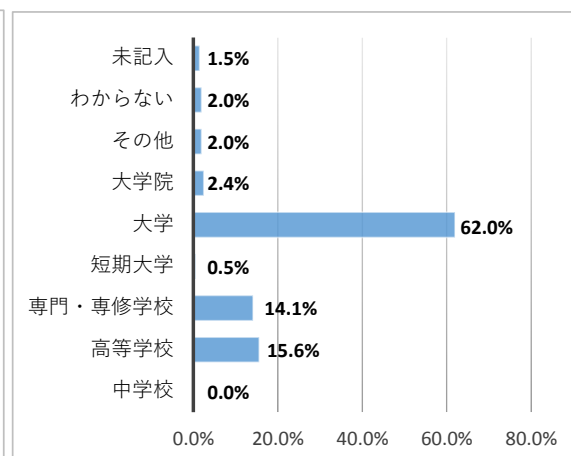


【男の子の場合】

女性

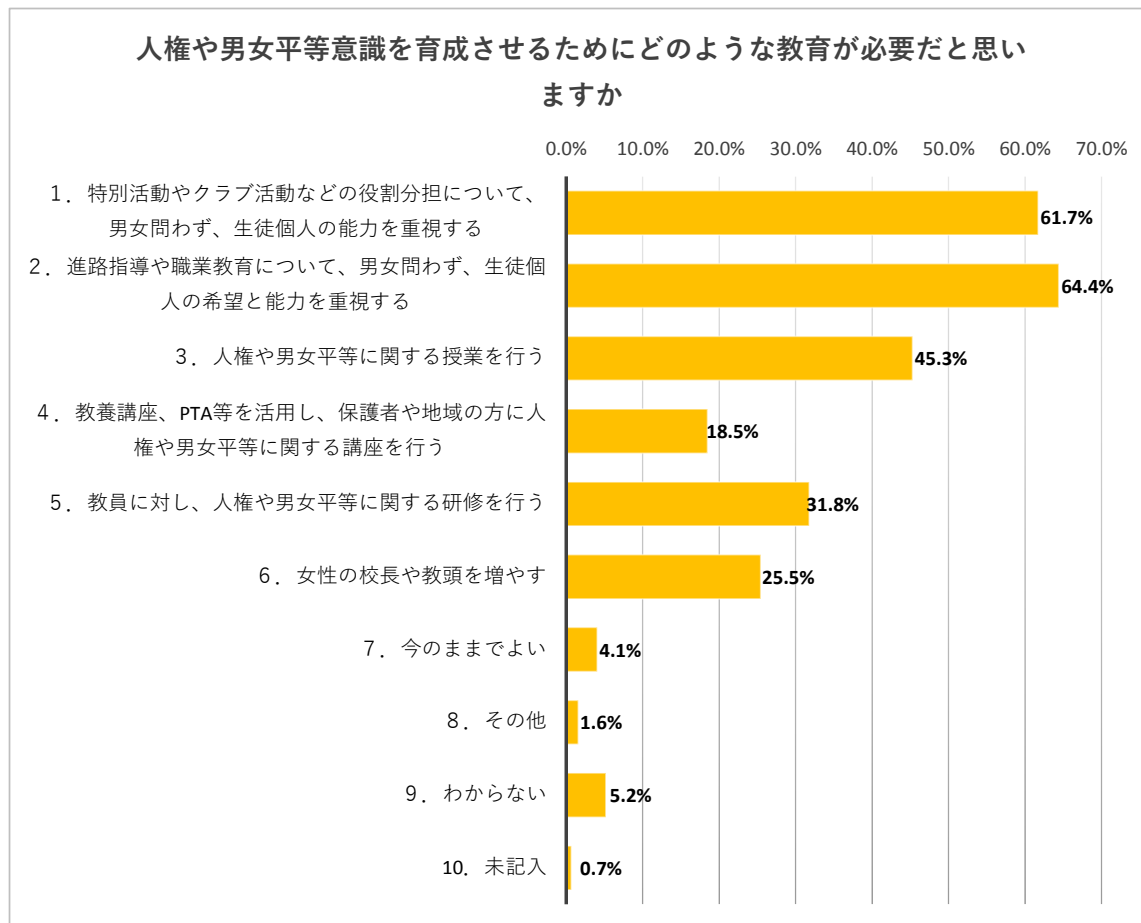


男性



『女の子の場合』に受けさせたい教育については、男女とも「大学」が最も高くなっているが（男性52.7%、女性54.9%）、『男の子の場合』に受けさせたい教育の程度を「大学」と回答した割合（男性62.0%、女性68.9%）より低くなっている。

問7. 家庭や学校において、子どもたちに対し、人権や男女平等意識を育成させるためにどのような教育が必要だと思いますか。（複数選択可）

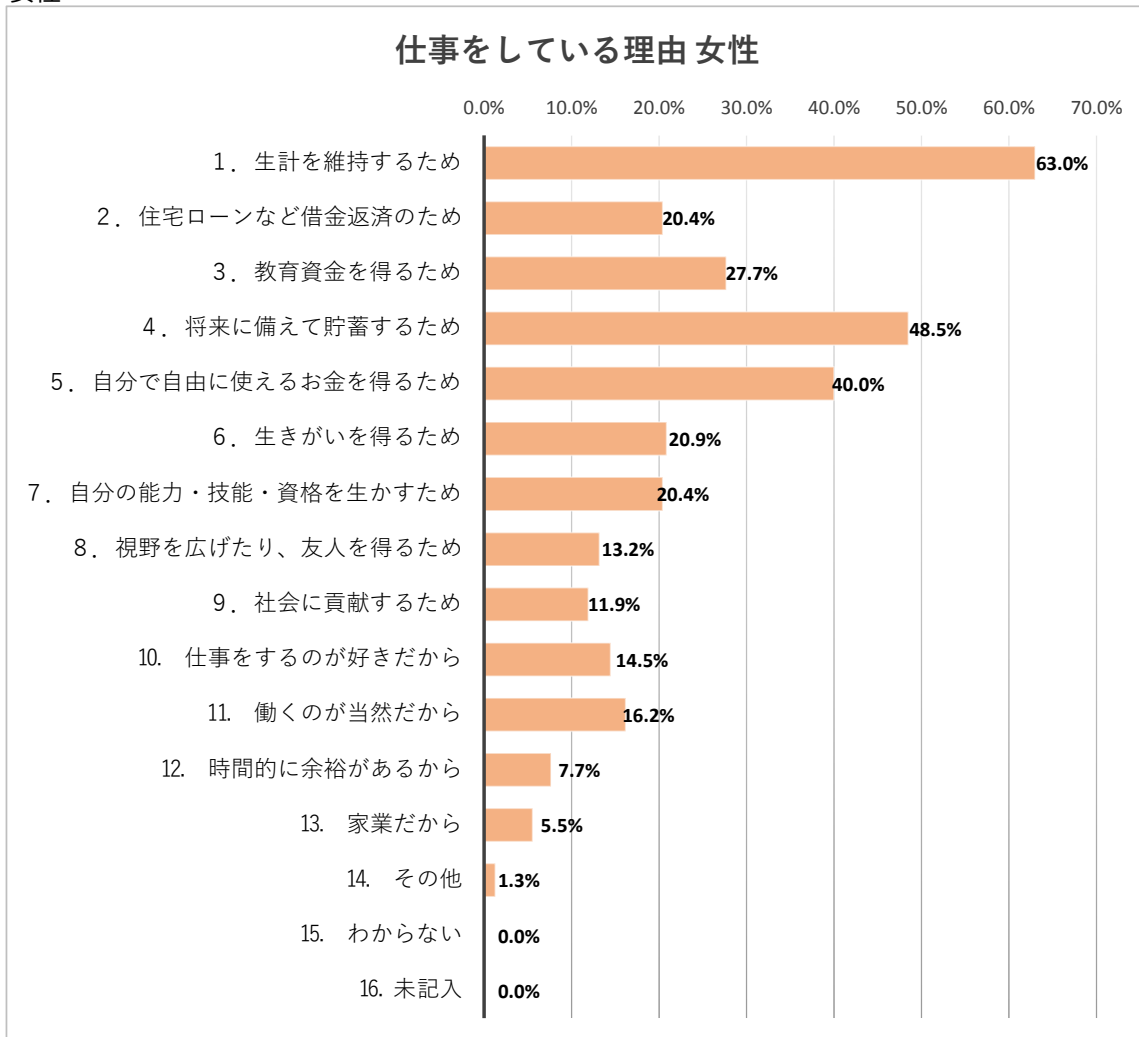


「進路指導や職業教育について、男女問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」がもっとも高く（64.4%）、次いで「特別活動やクラブ活動などの役割分担について、男女問わず、生徒個人の能力を重視する」（61.7%）となっている。

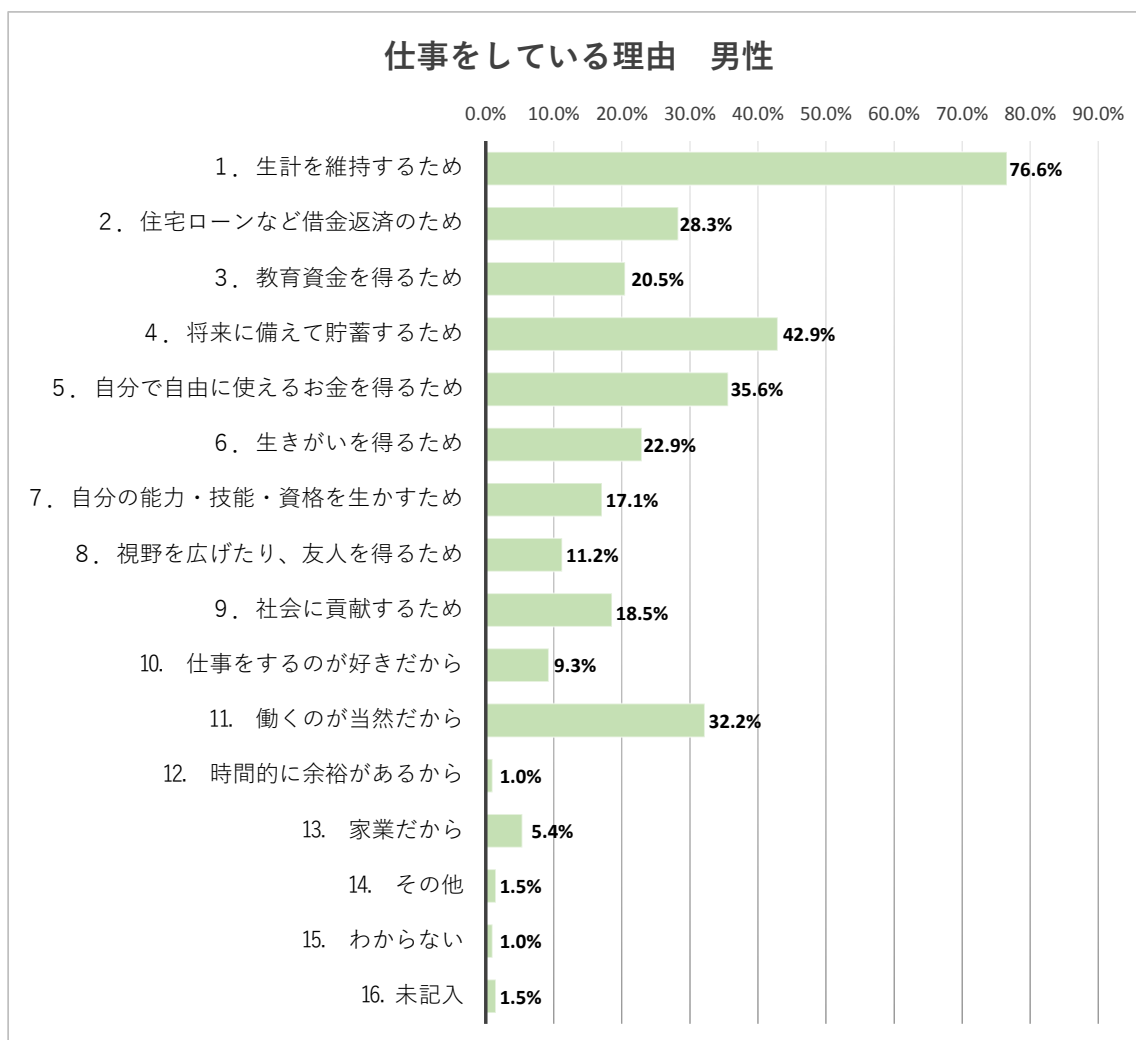
職業について

問8. 仕事をしている理由は何ですか。(複数選択可)

女性



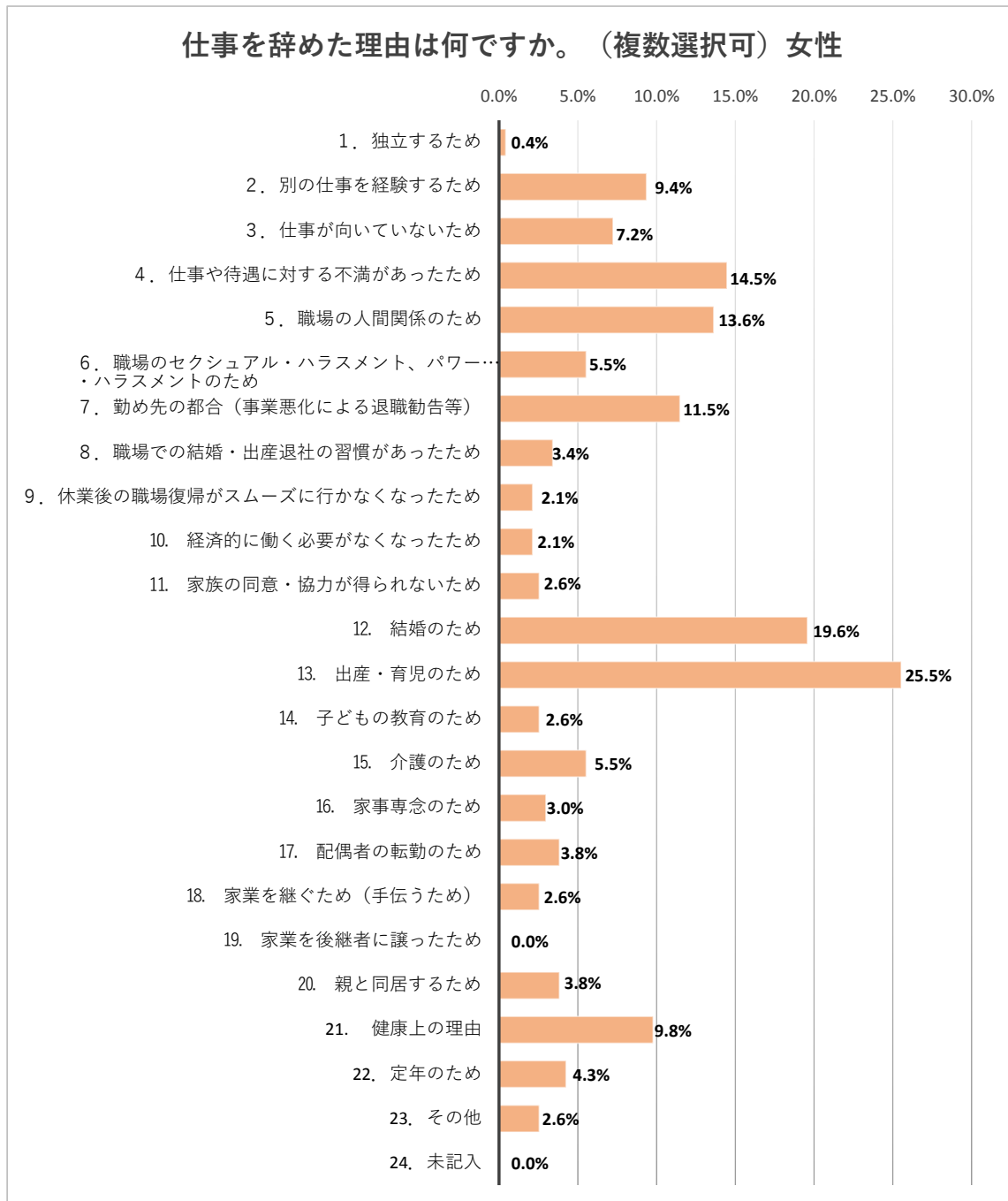
男性



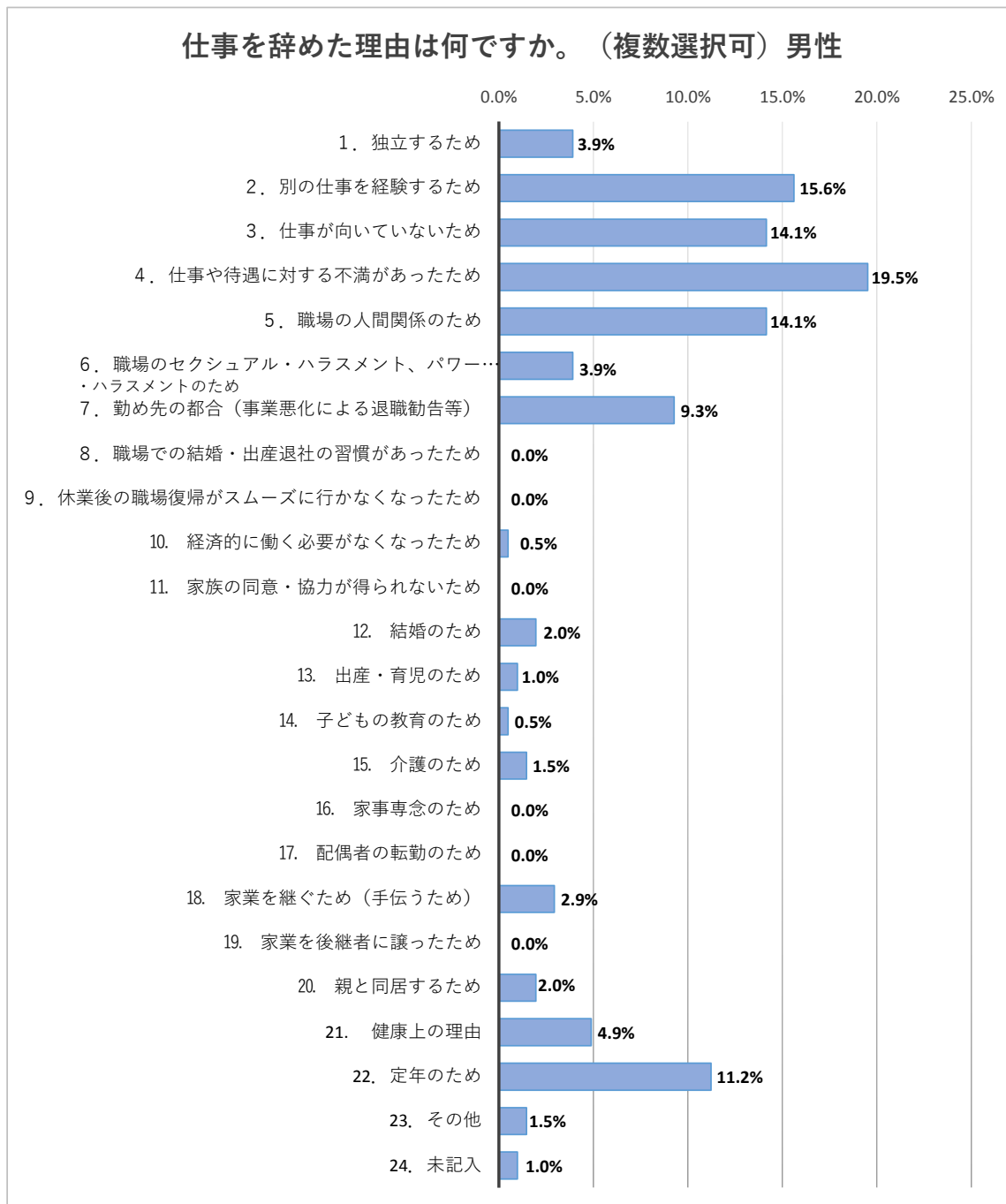
男女とも「生計を維持するため」が最も多く（男性76.6%、女性63.0%）、次いで「将来に備えて貯蓄するため」が続いている（男性42.9%、女性48.5%）。

問9. 仕事を辞めた理由は何ですか。（複数選択可）

女性



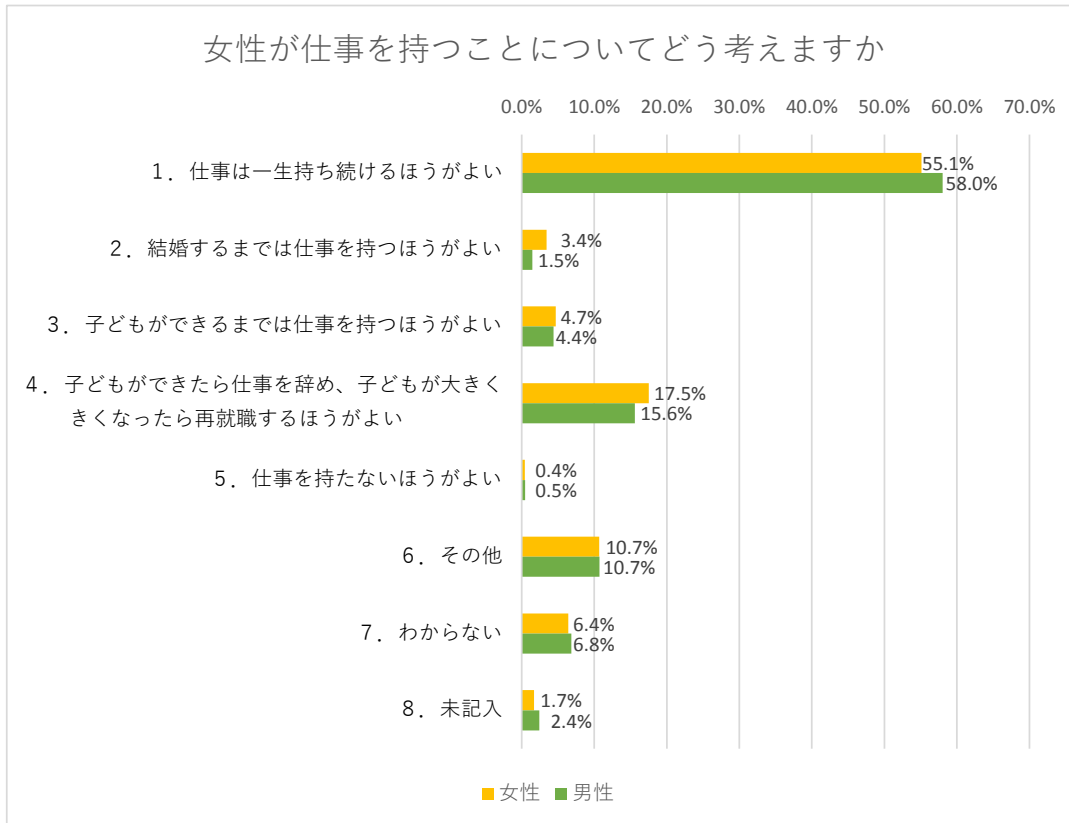
男性



男性では「仕事や待遇に対する不満があったため」が19.5%で最も多く、次いで「別の仕事を体験するため」が15.6%、「仕事が向いていないため」「職場の人間関係のため」がそれぞれ14.1%と続いている。

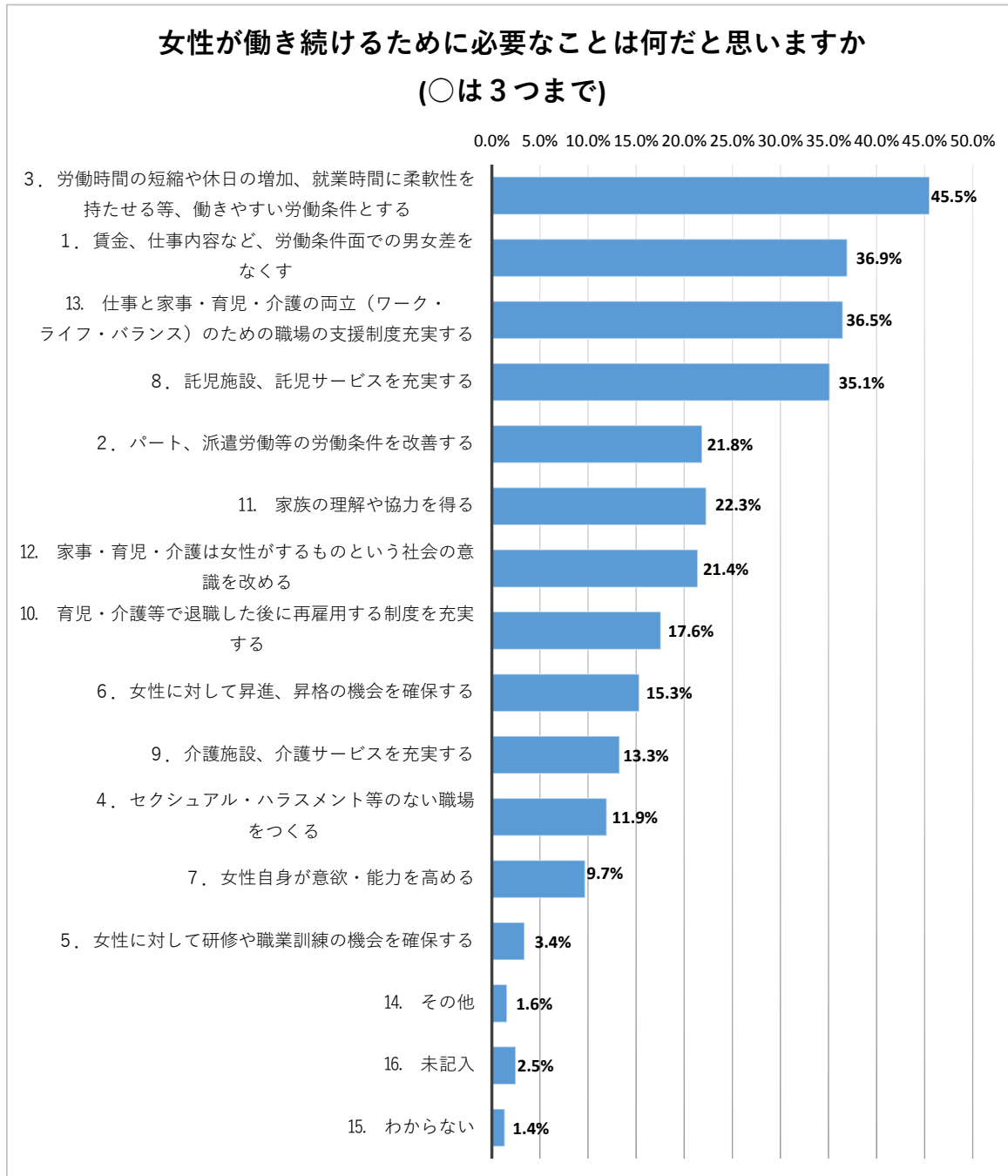
女性では、「出産・育児のため」が25.5%で最も多く、次いで「結婚のため」が19.6%、「仕事や待遇に対する不満があったため」が14.5%と続いている。

問10. 女性が仕事を持つことについてどう考えますか。



男女とも、女性が仕事を持つことについて、「仕事は一生持ち続けるほうがよい」という考え方が最も多く、半数以上となっている。

問 1 1. 女性が働き続けるために必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)



女性が働き続けるために必要なこととして「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせる等、働きやすい労働条件とする」が45.5%で最も多く、次いで「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」が36.9%、「仕事と家事・育児・介護の両立（ワーク・ライフ・バランス）のための職場の支援制度充実する」が36.5%と続いている。

女性の活躍促進について

問 12. あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍していると思いますか。

項目	人数 (人)	割合 (%)
1. 活躍している	116	26.1%
2. どちらかといえば活躍している	183	41.2%
3. どちらかといえば活躍していない	121	27.3%
4. 活躍していない	19	4.3%
5. 未記入	5	1.1%
合計	444	100.0%

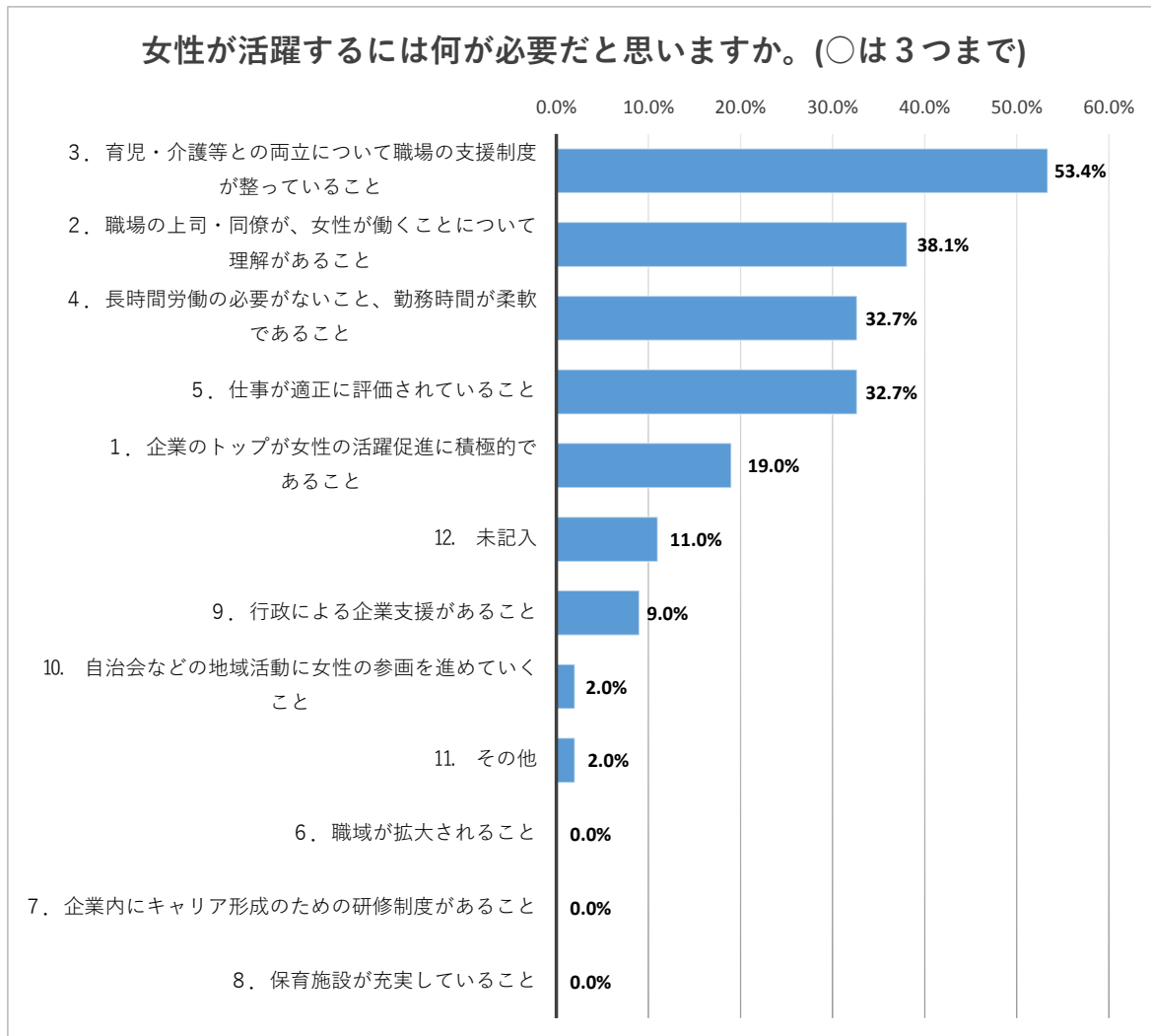
問 13. 活躍していると感じる理由は何ですか。(〇は3つまで)

項目	人数 (人)	割合 (%)
1. 産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている	95	21.4%
2. 女性の経営者や管理職が増えている	69	15.5%
3. 管理職でないが活躍する女性が増えている	144	32.4%
4. 女性の職域が広がっている	113	25.5%
5. 女性のキャリア意識が上がっている	62	14.0%
6. 長時間労働の慣習が改善されてきている	36	8.1%
7. PTAや自治会の会長等役職に就いている女性が増えている	28	6.3%
8. その他	10	2.3%
9. 未記入	4	0.9%
各合計	444	

問 14. 活躍していないと感じる理由は何ですか。(〇は3つまで)

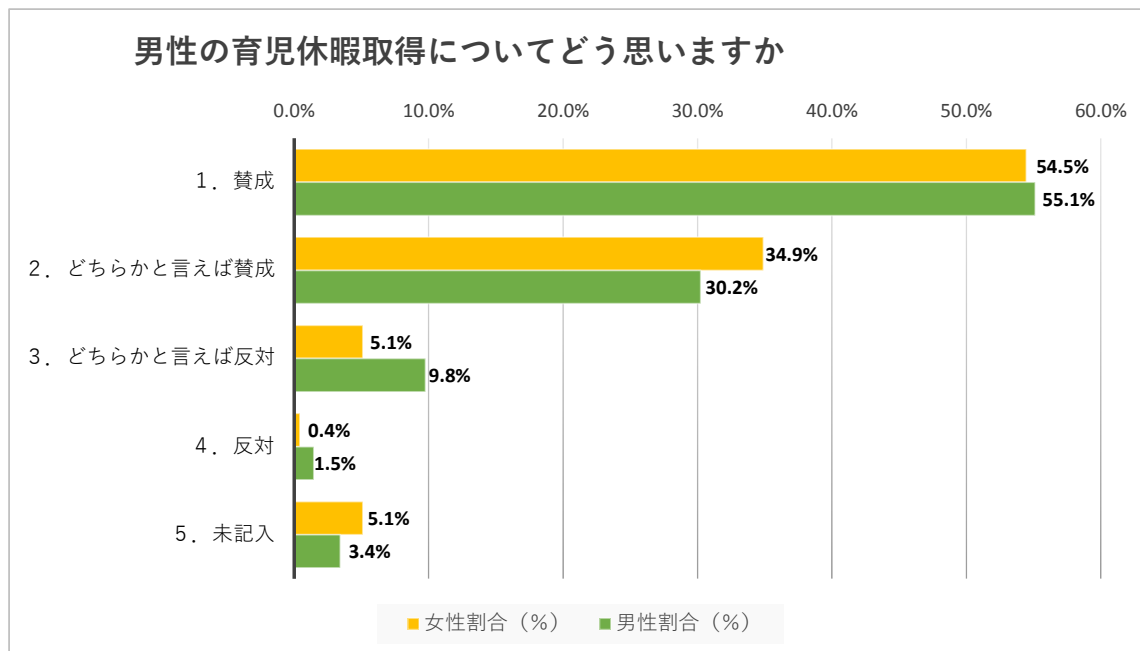
項目	人数 (人)	割合 (%)
1. 産休・育休などの支援制度が不十分である	22	5.0%
2. 産休・育休などの支援体制があっても利用しにくい(できない)	23	5.2%
3. 女性の経営者や管理職が少ない	44	9.9%
4. 女性の職域が限定的である	33	7.4%
5. 女性のキャリア意識が向上していない	31	7.0%
6. 出産・育児などのために男性に比べキャリア形成が難しい	53	11.9%
7. 男性優位の考え方が変わっていない	48	10.8%
8. 長時間労働の慣習が改善されていない	25	5.6%
9. PTAや自治会の会長等役職に就いている女性がいない	11	2.5%
10. その他	3	0.7%
11. 未記入	12	2.7%
合計	444	

問15. 女性が活躍するには何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



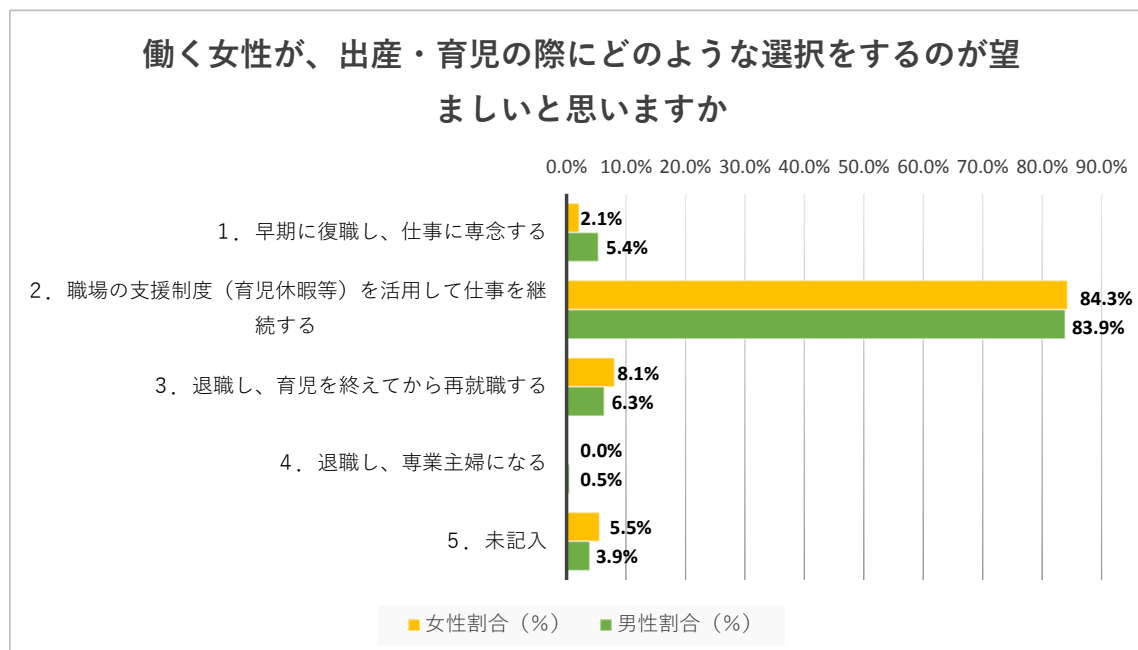
女性が活躍するために必要なこととしては、「育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」が53.4%と最も高く、次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」が38.1%、「長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること」、「仕事が適正に評価されていること」が32.7%、「企業のトップが女性の活躍促進に積極的であること」が19.0%と続いている。

問 16. 男性の育児休暇取得についてどう思いますか。



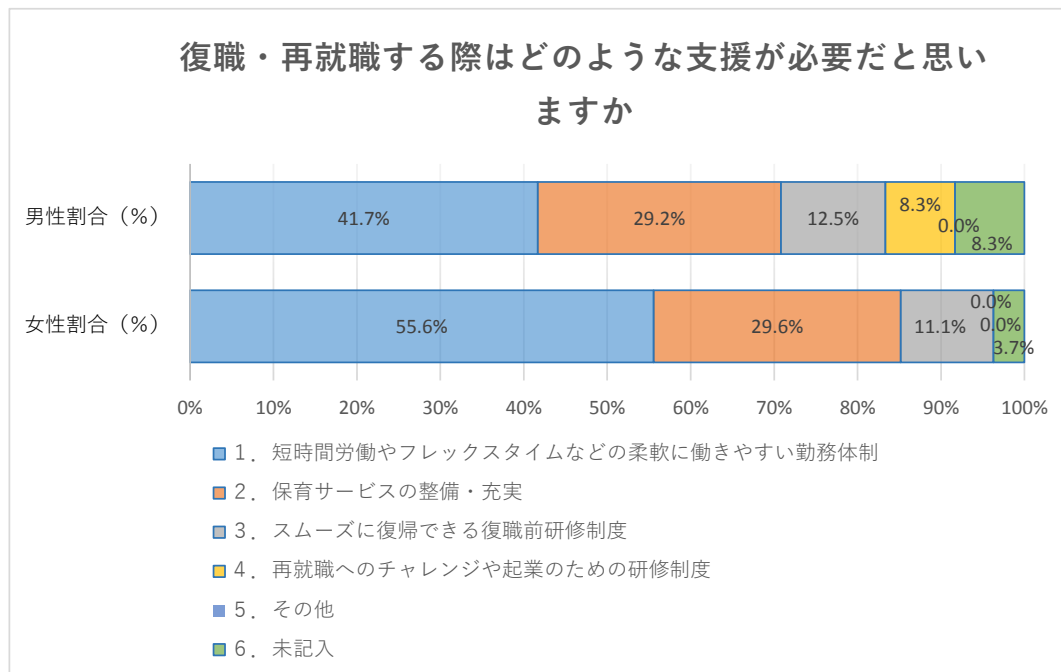
男性の育児休暇取得については、男女とも「賛成」、「どちらかといえば賛成」が8割を超えている。

問 17. 働く女性が、出産・育児の際にどのような選択をするのが望ましいと思いますか。



男女とも「職場の支援制度（育児休暇等）を活用して仕事を継続する」が8割を超えている。

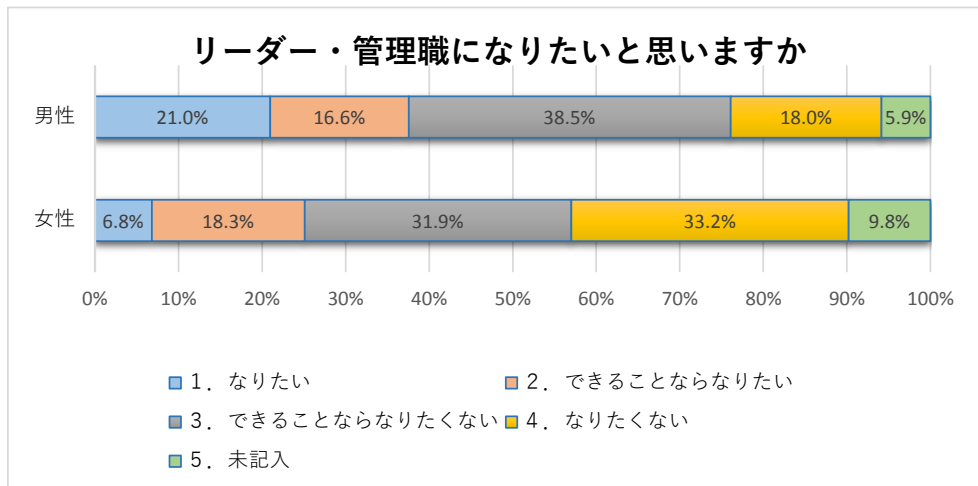
問 18. 復職・再就職する際はどのような支援が必要だと思いますか。



復職・再就職する際に必要な支援としては、「短時間労働やフレックスタイムなどの柔軟に働きやすい勤務体制」が男女とも最も高い。

「短時間労働やフレックスタイムなどの柔軟に働きやすい勤務体制」と回答した割合は、男性より女性のほうが高い（男性41.7、女性55.6%）。

問 19. リーダー・管理職になりたいと思いますか。

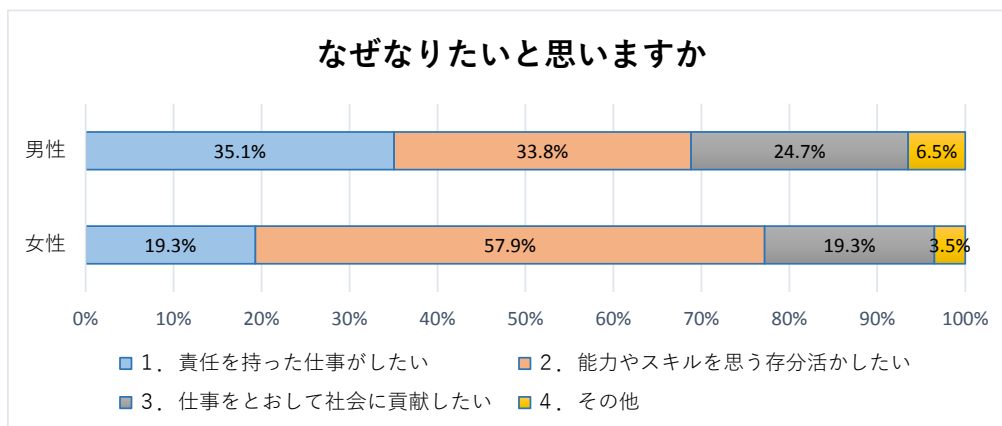


『なりたい』回答した割合は、女性より男性のほうが高い。

『できることならなりたくない』の割合は女性が31.9%、男性が38.5パーセント。

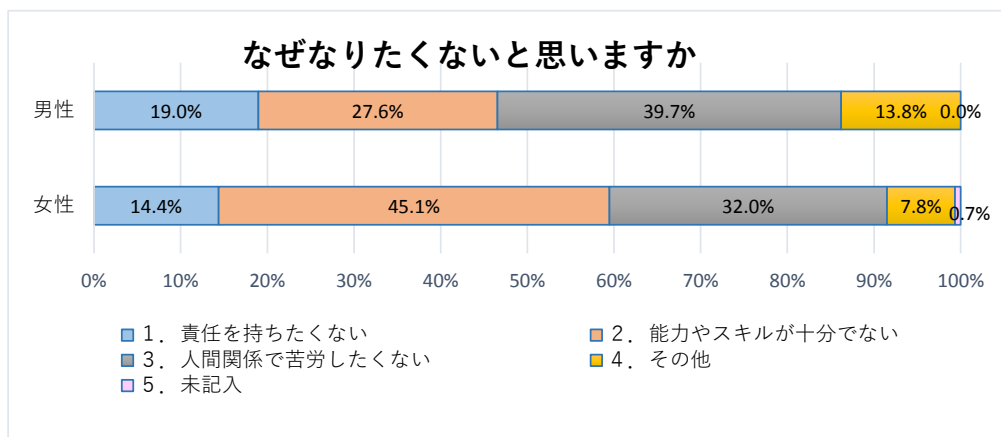
『なりたくない』の割合は女性が33.2%、男性が18.0%。

問 20. なぜなりたいと思いますか。



『責任を持った仕事がしたい』と回答した割合は女性より男性の方が高く、『能力やスキルを思う存分活かしたい』と回答した割合は男性より女性の方が高い。

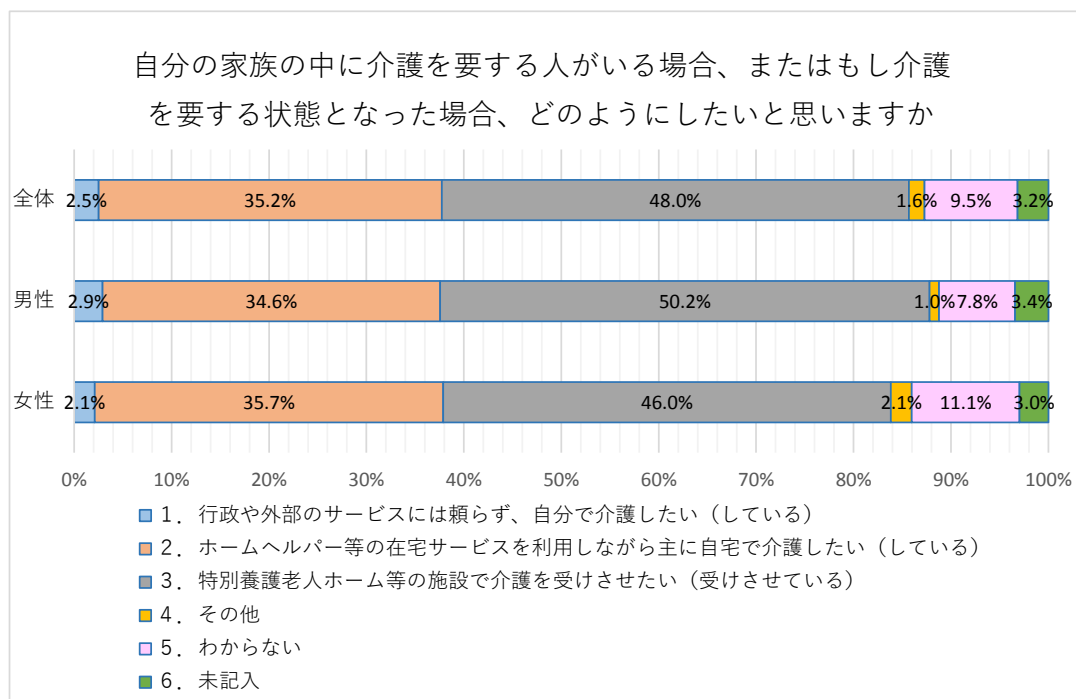
問 21. なぜなりたくないと思いますか。



『責任を持ちたくない』、『人間関係で苦勞したくない』、と回答した割合は女性より男性の方が高く、『能力やスキルが十分でない』と回答した割合は、男性より女性のほうが高い。

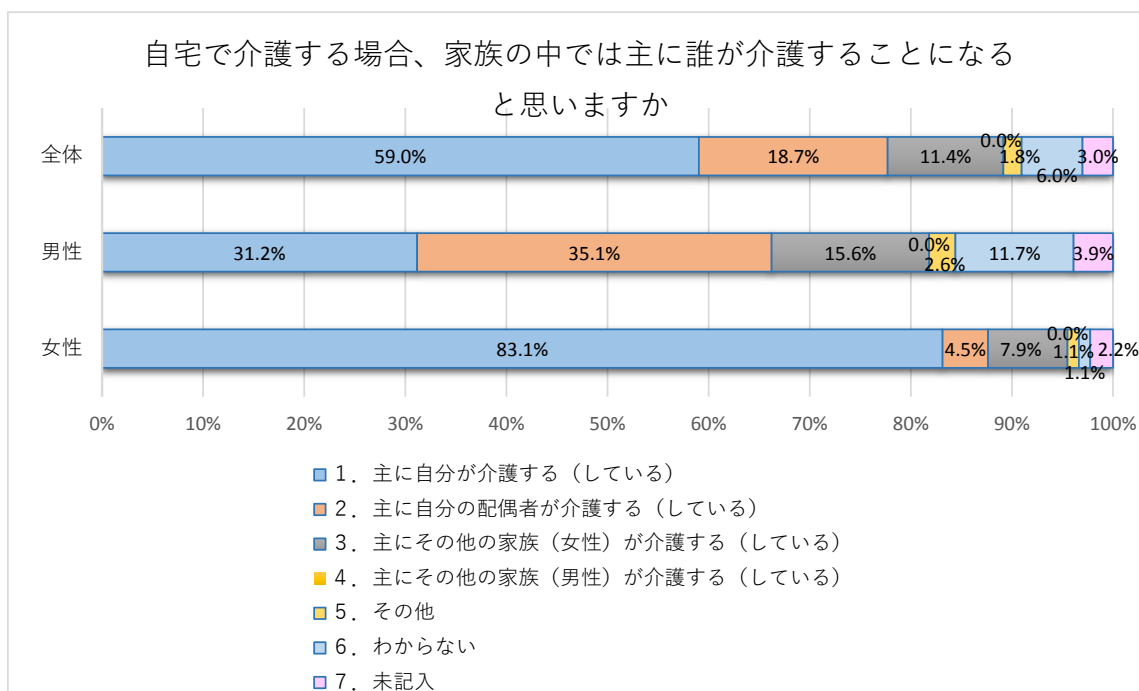
介護について

問 2 2. 自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、またはもし介護を要する状態となった場合、どのようにしたいと思いますか。



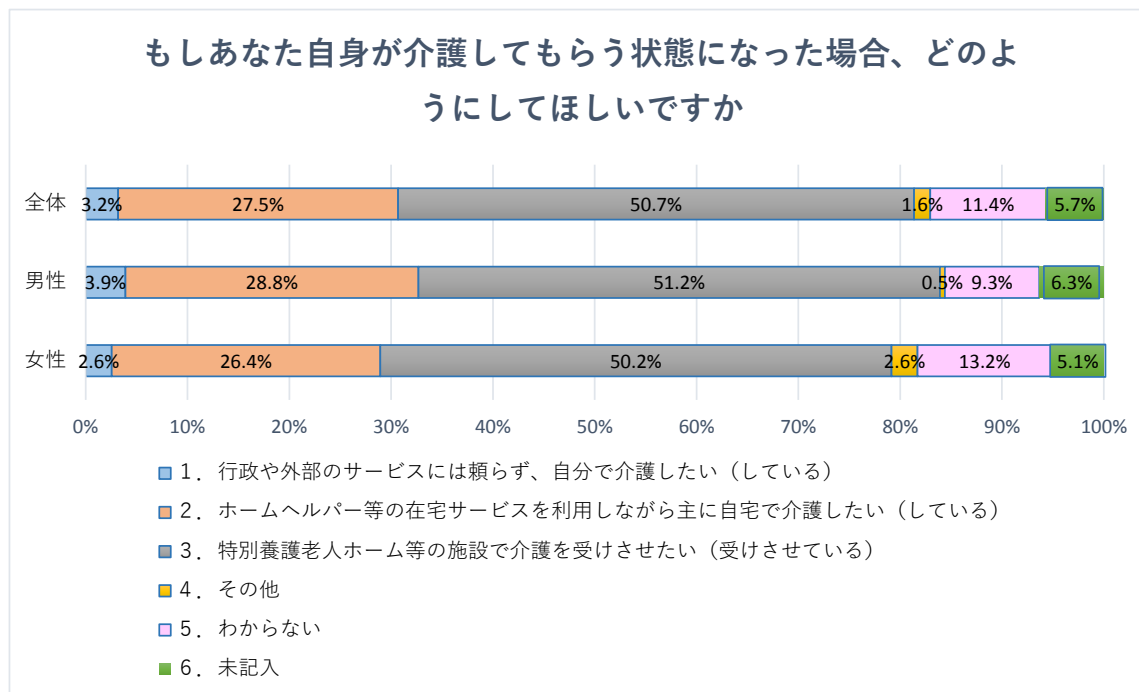
家族の介護方法として、「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい (受けさせている)」が最も高く (男性50.2%、女性46.0%)、次いで「ホームヘルパー等の在宅サービスを利用しながら主に自宅で介護したい (している)」が続いている (男性34.6%、女性35.7%)。

問 2 3. 自宅で介護する場合、家族の中では主に誰が介護することになるとおもいますか。



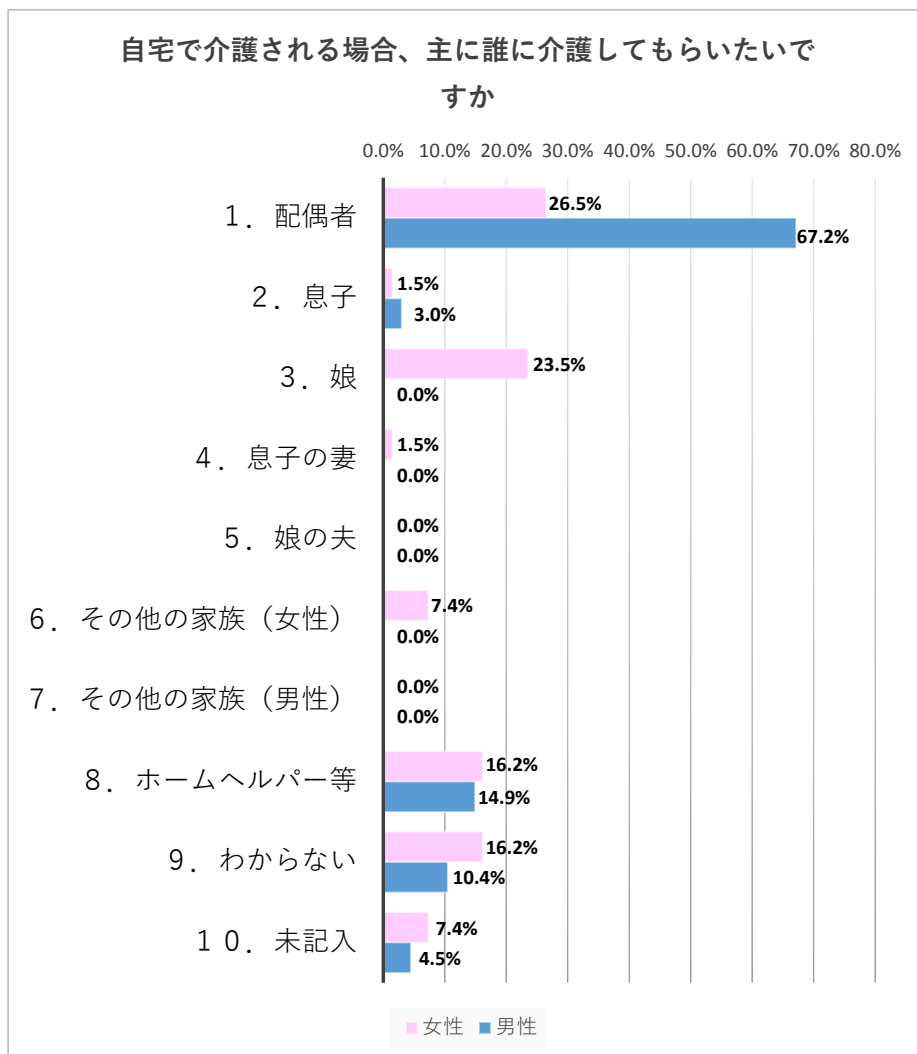
「主に自分が介護する (している)」と回答した割合は、女性の方が高く (男性31.2%、女性83.1%)、「主に自分の配偶者が介護する (している)」と回答した割合は、男性の方が高い (男性35.1%、女性4.5%)。

問 2 4. もしあなた自身が介護してもらった状態になった場合、どのようにしてほしいですか。



男女とも「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい (受けさせている)」最も高く (男性51.2%、女性50.2%)、次いで「ホームヘルパー等の在宅サービスを利用しながら主に自宅で介護したい (している)」が続いている (男性28.8%、女性26.4%)。

問25. 自宅で介護される場合、主に誰に介護してもらいたいですか。

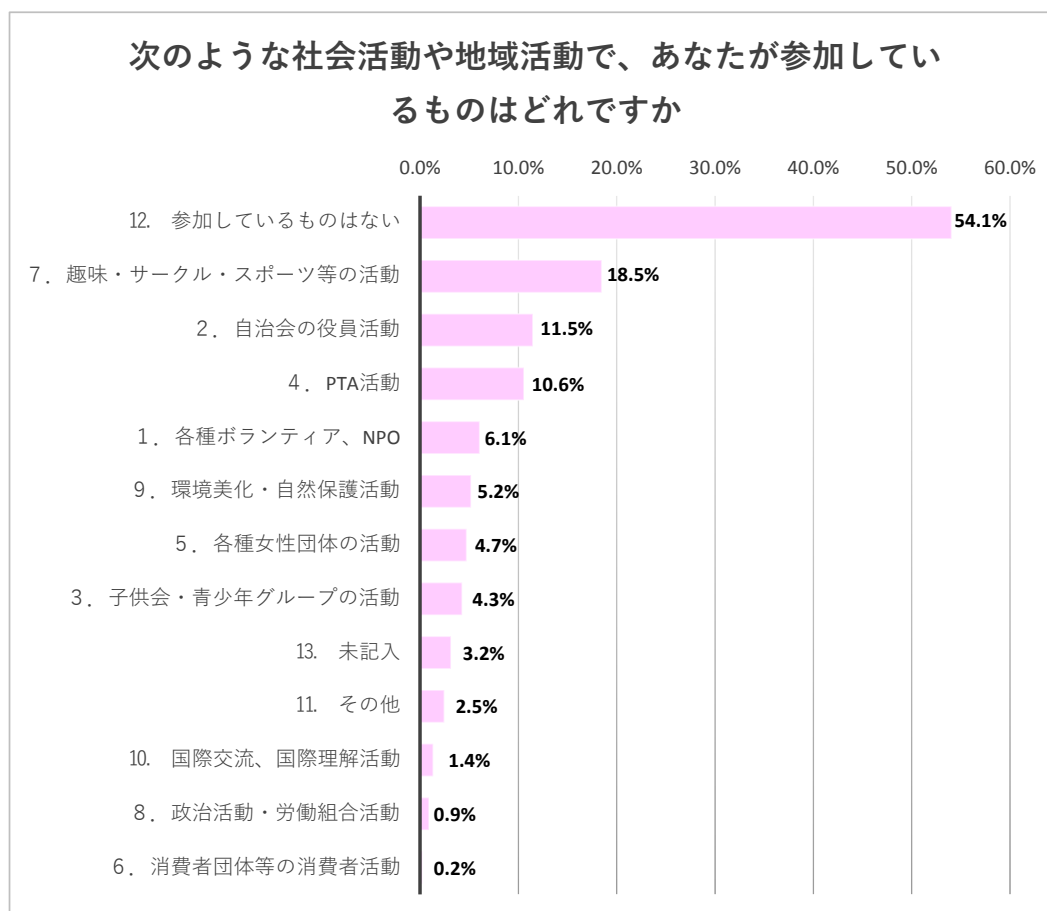


男女とも「配偶者」が最も高く、女性より男性の方が高い（男性67.2%、女性26.5%）。
次いで「ホームヘルパー」が続いている（男性14.9%、女性16.2%）。

社会参加について

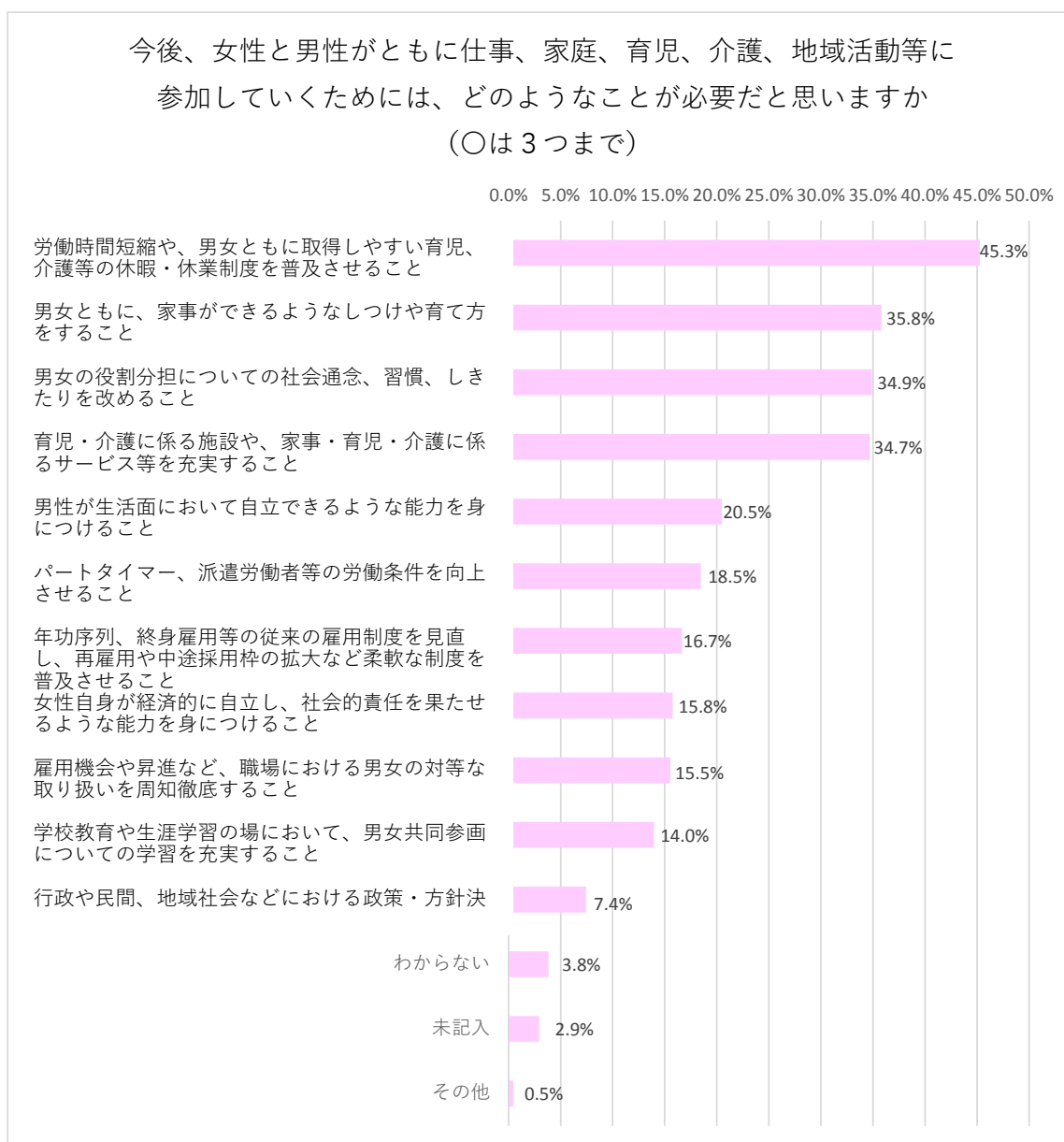
問26. 次のような社会活動や地域活動で、あなたが参加しているものはどれですか。

(複数回答可)



参加している社会活動や地域活動では、「趣味・サークル・スポーツ等の活動」が18.5%で最も高く、次いで「自治会の役員活動」が11.5%、「PTA活動」が10.6%と続いている。一方で「参加しているものはない」が54.1%となっている。

問27. 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）



女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に参加していくために必要なことは、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護等の休暇・休業制度を普及させること」が45.3%と高く、次いで「男女ともに、家事ができるようなしつけや育て方をする」が35.8%、「男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」が34.9%、「育児・介護に係る施設や、家事・育児・介護に係るサービス等を充実すること」が34.7%となっている。

男女の人権について

問 2 8 . 女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことですか。

項目	割合 (%)
1. 売春・買春 (いわゆる「援助交際」を含む)	4.4%
2. ポルノ産業や女性の風俗営業	2.0%
3. 女性のヌード写真などを掲載した雑誌、女性の媚びたポーズなどを使用した広告、女性の身体を強調したテレビなど	3.6%
4. 女性の容姿を競うミス・コンテスト	1.1%
5. 職場におけるセクシュアル・ハラスメントなど	11.8%
6. 家庭内における夫から妻に対する暴力	12.7%
7. 「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押し付けること	44.4%
8. その他	0.4%
9. 特になし	6.7%
10. わからない	9.6%
11. 未記入	3.3%

問 2 9 . 男女が生涯にわたり心身ともに健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。(複数回答可)

項目	割合 (%)
1. 女性が性生活について主体的・総合的に判断する力をつけること	9.9%
2. 妊娠、出産、避妊、中絶に関する情報の提供	11.7%
3. 学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施	23.6%
4. 思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進	45.7%
5. 心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備	41.2%
6. 職場等でのメンタルヘルス体制の充実	31.8%
7. その他	3.2%
8. 特になし	4.5%
9. わからない	10.8%
10. 未記入	3.6%

配偶者からの暴力について

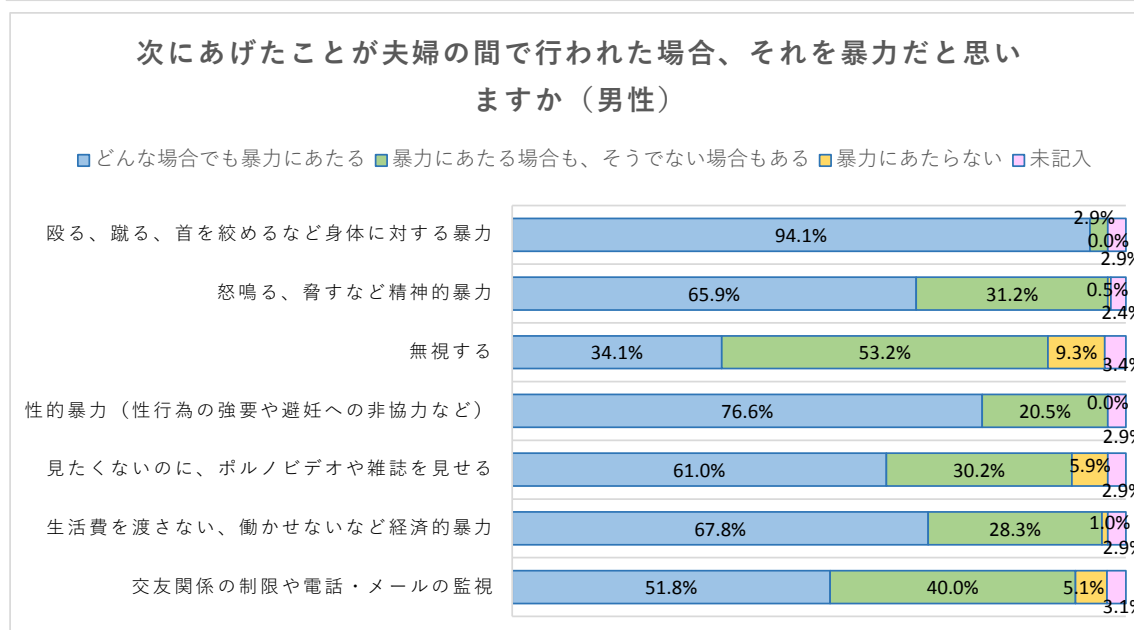
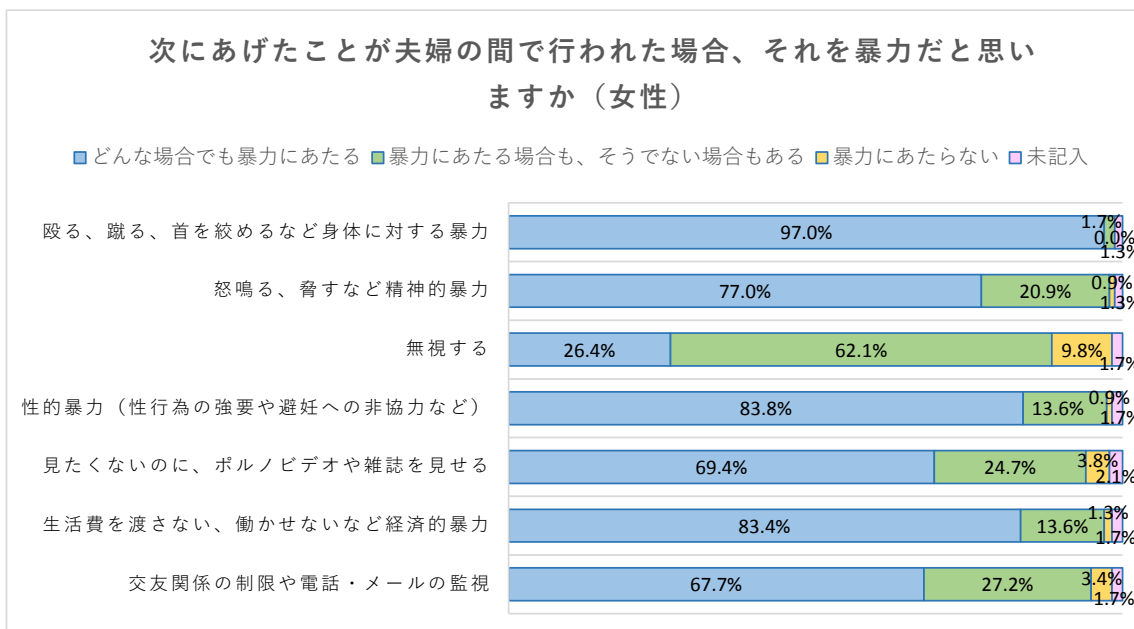
問30. 「夫の言うことを素直に聞き入れる妻が『良い妻』である」という考え方についてどう思いますか。

性別	項目	割合 (%)
女性	1. そう思う	0.4%
	2. どちらかと言えばそう思う	2.6%
	3. どちらかと言えばそう思わない	17.0%
	4. そう思わない	74.9%
	5. わからない	4.3%
	6. 未記入	0.9%
男性	1. そう思う	1.0%
	2. どちらかと言えばそう思う	13.7%
	3. どちらかと言えばそう思わない	14.6%
	4. そう思わない	54.1%
	5. わからない	13.2%
	6. 未記入	3.4%

問31. 配偶者からの暴力について、相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。
(複数選択可)

項目	割合 (%)
1. 警察	75.0%
2. 法務局、地方法務局、人権擁護委員	11.0%
3. 保健福祉（福祉）事務所、女性相談員	23.9%
4. 女性のための相談支援センター、男女共生センター	34.9%
5. 県庁	2.0%
6. 市役所、町村役場	19.8%
7. 裁判所	7.0%
8. 民間の機関（弁護士会、民間シェルターなど）	24.3%
9. その他	0.5%
10. 相談できる窓口として知っているところはない	13.7%
11. 未記入	1.6%
合計	

問32. 次にあげたことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いませんか。



『殴る、蹴る、首を絞めるなど』については、「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した割合は、男女とも高い。

『怒鳴る、脅すなど』については、「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性65.9%、女性77.0%）。

『無視する』については、「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した割合は、女性より男性の方が高い（男性34.1%、女性26.4%）。

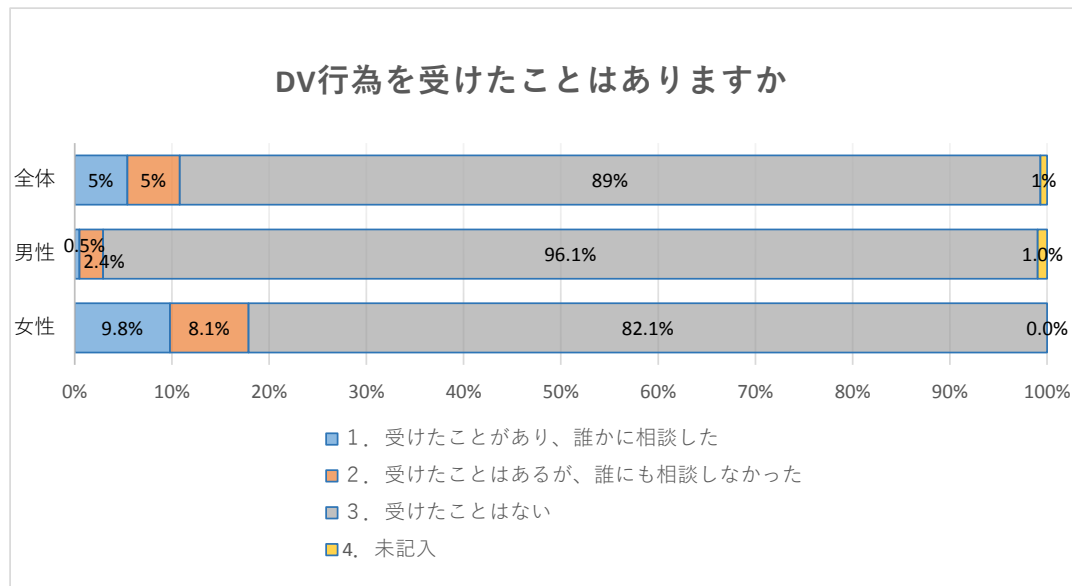
『性行為の強要や避妊への非協力など』については、「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性76.6%、女性83.8%）。

『見たくないのに、ポルノビデオや雑誌を見せる』については、「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性61.0%、女性69.4%）。

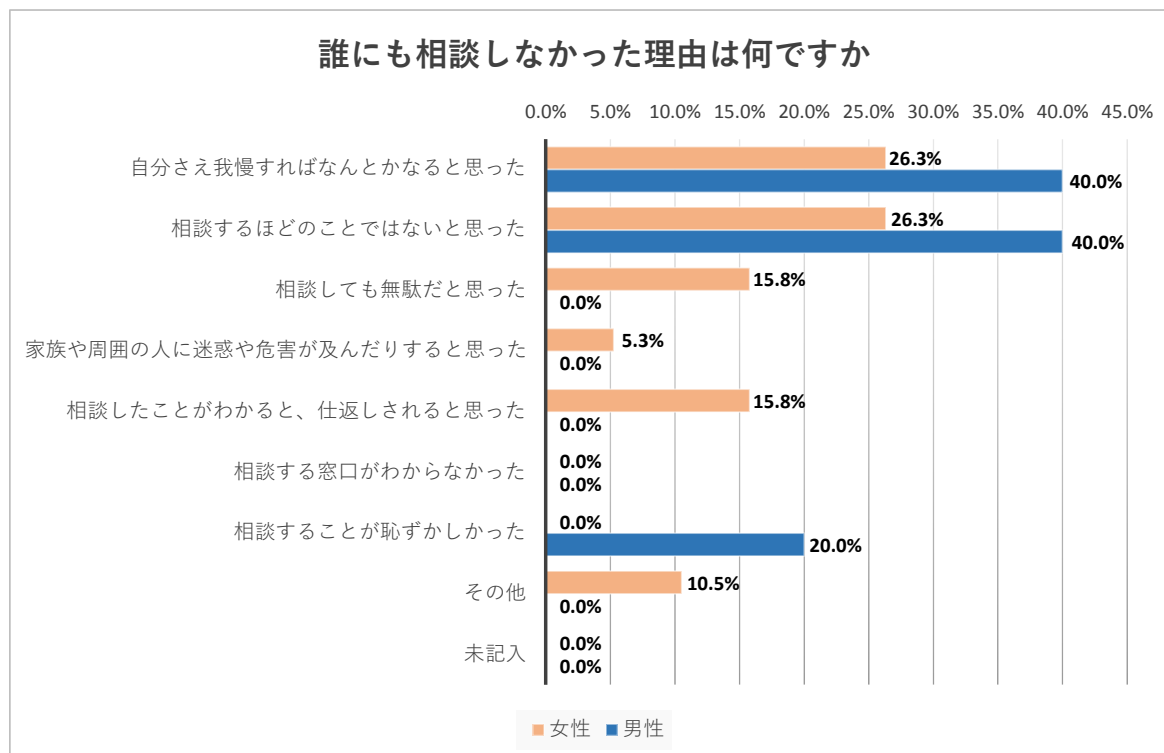
『生活費を渡さない、働かせないなど』については、「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性67.8%、女性83.4%）。

『交友関係の制限や電話・メールの監視』については、「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した割合は、男性より女性の方が高い（男性51.8%、女性67.7%）。

問33. DV行為を受けたことはありますか。



問34. 誰にも相談しなかった理由は何ですか。



DV行為を受けたことはあるが、誰にも相談しなかった理由は「自分さえ我慢すればなんとかなると思った」「相談するほどのことではないと思った」割合が男女とも高く、それぞれ（男性40.0%、女性26.3%）。